

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容理論（メイク）	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ねらい	メイク技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	1. メイクアップ概論・メイクアップの道具 2. ゴールデンプロポーション 【到達目標】 1. メイクアップアーティストとしての心構えや道具の種類を理解する 2. ゴールデンプロポーションの比率を理解する				
2	1. メイクアップと色彩 2. スキンケア 皮膚の構造 【到達目標】 1. 色の色相、明度、彩度を理解する。 2. 皮膚の構造と肌別のスキンケア方法を理解する				
3	メイクテクニックメイクテクニック（スキンケア、コントロールカラー、ファンデーション、アイブロウ、アイシャドウ、アイライン） 【到達目標】 スキンケア、コントロールカラー、ファンデーション、アイブロウ、アイシャドウ、アイラインのメイクテクニックを理解する				
到達目標	メイクアップ（顔のプロポーション,色彩，皮膚の構造）の基礎知識が理解できている				
評価方法	期末実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論2」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容理論（ネイル）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	4
教育目標・ ねらい	ネイル技術の基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	ネイル概論・爪の構造と働き・爪や皮膚の病気とトラブル 【到達目標】ネイルの歴史やネイルの技術体系、爪の構造と働きを理解し、適切なサービスを提供するうえで、皮膚の病気やトラブルを理解し、施術のが可能かどうか適切な判断ができるようにする				
2	リペア・イクステンションの用具・用材と使用目的 【到達目標】リペア・イクステンションで使用する用具・用材の使用目的を理解する				
到達目標	ネイル概論を理解し、ネイリスト技能検定試験3級筆記試験80点以上の知識を習得する。				
評価方法	期末実技試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）に対し未出席の学生は受験することができない。				
テキスト	JNAテクニカルテキスト ベーシック				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容理論（日本髪・着付け）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	5
教育目標・ ねらい	日本の伝統技術、日本髪と着物の名称を理解する				
授業回	学習内容			備 考	
1	日本髪について 【到達目標】日本髪の由来、各部の名称、種類と特徴、装飾品を理解する着付理論 【到達目標】着付けの目的、礼装、着物と季節、着物の種類、帯、小物、着物各部の名称を理解する				
到達目標	美容師国家試験において、日本髪、着付けの出題内容が理解できる着付け、日本髪の基本知識を説明することができる				
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野、村田		
科目名	美容理論（化粧品検定2級）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	10
教育目標・ ねらい	美容部員として必要な手技や知識を学び企業人としての見識や教養を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	皮膚・肌について知る：皮膚の構造を知り、各々のはたらきを知る。				
2	肌の手入れ：肌に起こりうるトラブルとその正しい手入れ方法を学ぶ。				
3	メイクアップの基本テクニック：一般的なメイクの手順と肌悩みに応じたメイクの手法について学ぶ。				
4	美肌のために：紫外線などの肌に影響を与える様々な要因を知り、美肌の維持に何が必要かを学ぶ。				
5	総合演習				
到達目標	化粧品検定2級を通して、美容部員としての通常業務において必要な手技・用語の理解、知識の獲得。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	化粧品検定2級				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容理論（化粧品検定2級）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	5
教育目標・ね らい	理論に基づいた正確な化粧品の知識習得を目指し2級検定を取得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	皮膚・肌について知ろう 皮膚の構造 2 皮膚の仕組みと働き 3 皮膚の機能			1	
2	肌の手入れと正しい知識 1 肌のタイプと見分け方 2 肌悩みの原因とお手入れ				
3	美肌・美ボディ生活を送るには 1 肌を劣化させるさまざまな要因 2 赤外線が肌に与える影響				
4	美肌・美ボディ生活を送るには 3 効果的なマッサージの必要性と方法 4 美しい肌をつくる生活習慣				
5	日本化粧品検定2級 模擬試験				
到達目標	化粧品について基礎知識が理解できている				
評価方法	化粧品検定1級試験(得点率70点以上合格)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	化粧品検定2.3級対策テキスト				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	池田		
科目名	美容美術（デッサン）	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	色彩の理論を理解し、それを応用したテーマ作品を根気よく創造し、色彩の美を体感できるようになる。期待に添えるヘアメイクの技術提供ができるようになるため、美術の教養と技術を身につける。				
授業回	学習内容			備 考	
準備	学校準備			学生準備	
1	1.授業のガイダンス 2.色彩の基礎Ⅰ-色の2.原色より色相環の作成 [到達目標]①PCCSの色番号やトーンなど色彩の基礎を解釈する。②3原色の絵の具を適量混ぜながら24色相を作り出し相応しい色を着色する。隣同士が同じような色にならず、均等配色を目指し、色の段階や色相の配置を体感できる。③水量を調節しムラなくはみ出さずに美しく着色できる。			A4ケント紙、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード	
2	1.人物デッサンⅠ-顔の描写と韓流メイク [到達目標]①バランスよく、おでこ、鼻、唇、目などを描けるようになる。②並行眉、まつげの向き、涙袋の下ラインの強調など描写しながら習得する。 2.色彩の基礎Ⅱ-トーン表 [到達目標]①明度、彩度、中間色など色彩の理解を深める。②一つの色相を選び、そのトーン表の作成をする。例えば赤（色相）白,黒の絵の具の量を調節して混色し12トーンを作る。			色鉛筆、鉛筆、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード	
3	1.色彩の基礎Ⅲ-補色の混色、グラデーションづくり、各肌色に似合う髪色 [到達目標]①補色同士の混色をしグレーを作る。金髪色に紫や赤みの頬にグリーンのコントロールカラーの例より補色同士の混合による彩度の緩和を行う。 ②色相24、2、4、6、8（マゼンタ、赤、オレンジ、黄）に黒を混ぜて赤系から黄系の茶色をつくる。②ピンク系に似合うブルーベース、オークル系の肌に似合うイエローベースの色や、パーソナルカラー、4シーズンの色彩を分類する。③色相を用いた、または、トーンを用いたグラデーションを選んだ色で作る。色の境目ができないように筆跡を重ねてなだらかに見せる。 2.次回のバラのデザイン画のマス引きをする。			A4ケント紙、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード	

授業回	学習内容	備 考
4	<p>1.バラのデザイン画Ⅰ-下書きと配色計画、着色</p> <p>[到達目標]①模写の方法を学ぶ。直線か、曲線か、線の凹凸の位置、ガイドの線のどこを通っているかなど、模写の方法やコツを学び実施する。1マス1マス確認しながら輪郭線の模写をする。②第1-3回の色彩の基礎の演習と学習を生かし、色相環を使ったグラデーション、1色相でトーンを変化させるグラデーション等、バラの配色の計画を立てる。</p> <p>③モノトーンのバラの写真の1-5段階の明暗（白～黒）を、計画した明暗5色のカラーのグラデーションに置き換えることができる。いちばん暗い部分を3段階くらいのグラデーションで塗る。</p>	<p>絵の具一式、定規、水入れ、配色カード</p>
5	<p>バラのデザイン画Ⅱ-着色と背景</p> <p>[到達目標]③一つの花びらの中に5,6色ほどのグラデーションの変化があることを理解し、写真のグラデーションの色の変化と同様に明暗の5-6段階で塗り分ける。①稜線を意識し、形、面が変わるところは色が変わることを理解し立体感を出す。②直線や曲線などの細部の描写、色彩や線により、心情や個性を表現する。④配色カードを当て背景によりバラの見え方が変化することを理解し効果的な背景色を選んで塗る。⑤十人十色のバラのデザイン画を鑑賞しデザイン性の高い、完成度の高い美しい作品を考え、自らの完成度を客観的に評価し、改善すべき点を述べる。</p>	<p>絵の具一式、定規、水入れ、配色カード、マスキングテープ</p>
6	<p>1.バラのデザイン画Ⅲ-仕上げ ①配色カードを当て背景によりバラの見え方が変化することを理解し効果的な背景色を選んで塗る。十人十色のバラのデザイン画を鑑賞しデザイン性の高い、完成度の高い美しい作品を考え、自らの完成度を客観的に評価し、改善すべき点を述べる。</p> <p>2.人物デッサンⅡ-前、横からの頭部の描写</p> <p>[到達目標]①バランスよく、おでこ、鼻、唇、目などを描けるようになる。②毛髪は曲線の傾きを追って描き、鉛筆の濃淡や練りゴムで光（白）を入れることで明暗、艶を出し立体感を学出す。美容の現場で美しい女性が短時間で描けるようになることを目指す。</p>	<p>絵の具一式、定規、水入れ、配色カード、マスキングテープ、色鉛筆、鉛筆、練りゴム</p>
7	<p>1.人物デッサンⅢ-色鉛筆を用いた描写</p> <p>[到達目標]①顔の形、左右の目の大きさなどバランスよく描けるようになる。②色鉛筆を混ぜて影などを塗り分け立体感を出す。色鉛筆の濃淡で毛髪の色合いのグラデーションを作ることができる。</p> <p>2.選択デザイン-次課題の解説Ⅰ</p>	<p>色鉛筆、鉛筆、練りゴム</p>

授業回	学習内容	備 考
8	<p>選択デザイン-数などを用いたデザインの考案Ⅰ</p> <p>[到達目標]シンメトリー,リピート,関数,黄金比の美を理解し、選んだテーマに沿って作品を考案する。①計画：二乗した数の合計が用紙にうまく入るよう縮小したり、作品が中央に配置されるなどレイアウトができる。②色彩計画：モノトーンと有彩色、360度色相、2色相のグラデーションなど配色計画を立てる。③マスキング、定規、コンパスなどの道具を用いて美しく作図、着色を1.2割まで進める。</p>	A4ケント紙、絵の具一式、定規、水入れ、配色カード、マスキングテープ、
9	<p>選択デザイン-数などを用いたデザインの考案Ⅱ</p> <p>[到達目標]①作品のグラデーションの変化が適切か、ワンポイントに他色相の色を低面積に入れるかなど配色カードを用いて検討しながら作品を着彩を6.7割まで進める。</p>	絵の具一式、定規、水入れ、配色カード、マスキングテープ、
10	<p>選択デザイン-</p> <p>[到達目標]丁寧に仕上げる。数などを用いたデザインの考案Ⅲ 無から作品を作り出す喜びを味わう。シンメトリーはヘアやファッションショー等舞台の構成でもよく使われる。リピートでは同じ形を繰り返し使う効果を学習、関数を用いたデザインでは数倍または2乗した数の並びの美しさを学ぶ。その中でデザイン力が向上し他の学習面への興味も高まる。</p>	絵の具一式、定規、水入れ、配色カード、マスキングテープ、
授業作品例		
到達目標	<p>色彩の理論を用いた色彩計画や配置に基づき美しい作品を創造することができる。デッサン力とデザイン力(発想し仕上げる)を向上させる。また業界で役立つ色彩検定の取得を目指す。美術の教養と技術を身につけ色彩の美を体感できるようになる。期待に添えるヘアメイクの技術提供のため人物画を描くことができるようになる。</p>	
評価方法	<p>作品のデザイン性と完成度、仕上がり具合で各課題を採点します。「色彩の基礎、人物デッサン1、小テスト、バラのデザイン画、人物デッサン2、選択デザイン」の各課題にかかる時間数や重要度により得点を按分し、副課題の加点、提出遅れや居眠り,制作遅れ等の減点を集計し、A~Eの成績点といたします。合格点はA~Dです。全課題を提出する必要があります。</p>	
テキスト	プリント	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容実習（メイク）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必須	授業時間(単位)	30
教育目標・ ねらい	ユニオンテキストを基としてメイクの基礎を理解し、標準バランスのメイクができるようになる				
授業回	学習内容				備 考
1	基礎	メイク道具の取り扱い方、テーブルセッティング方法			
2	基礎ベース	スキンケア、フェイスマッサージ、クレンジングの手順 ※各メイクごとにクレンジング 展示、実習			
3	基礎ベース	ベース、ファンデーション、コンシーラー、パウダー ハイライト、シェーディング ※1 スポンジ、ブラシ、素手など使用する道具の違いを理解する ※2 固形、パウダー、リキッドなど質感の違いを伝える			
4	基礎アイ①	アイブロー、アイブローパウダー、眉の整え方（カット、トリミング、ツウイズ）			
5	基礎アイ②	アイシャドー、アイライナーペンシル			
6	基礎アイ③	アイシャドー、アイライナーペンシル、リキッドアイライナー、ビューラー、マスカラ			
7	基礎リップ	リップ、リップライナー			
8	基礎チーク	チーク(ハイライト、シェーディング復習) ※ パウダー、リキッド、固形の各種で実習			

授業回	学習内容		備 考
9~10	フルメイク	スキンケアからのフルメイク①40分 ※ 各モデルごとにbefore・afterの写真を撮り、フェイスチャートにまとめる	
11~12		スキンケアからのフルメイク②40分	
13~14		《前期実技試験》 スキンケアからのフルメイク40分	
15		総復習	
到達目標	メイクの基礎を理解し、標準バランスのメイクができるようになる。		
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない		
テキスト	ユニオン公式テキスト、プリント		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う		

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容実習（メイク）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	30
教育目標・ ねらい	「美容理論2」（日本理容美容教育センター指定教科書）を基として色分析によるキュー ト、ボーイッシュ、クール、エレガントのイメージ別メイクの理解と習得				
授業回	学習内容				備 考
1～2	パーソナルカラー	スプリングベース→キュートな印象 マーベース→エレガントな印象			サ
3～4		オータムベース→知的な印象 インターベース→シャープな印象			ウ
5		縦メイク（女性的）アイシャドウ、アイライン、リップラ イン			
6		横メイク（男性的）アイシャドウ、アイライン、リップラ イン			
7～8	イメージ別 （パーソナルカラー） メイク	ボーイッシュメイク→クールメイク			
9～10		キュートメイク→エレガントメイク			
11～12		《プレ試験》 シーン、テーマに沿ったメイク 30分			
13～14		《後期実技試験》 シーン、テーマに沿ったメイク 30分			
15		総復習			
到達目標	パーソナルカラー（色分析）、キュート、ボーイッシュ、クール、エレガントのイメー ジ別メイクの理解と習得				
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数 （全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容理論2」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容実習（ユニオン認証メイク）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	30
教育目標・ ねらい	ユニオンテキストを基として顔分析（スペースバランス）、キュート、フレッシュ、クール、エレガントのイメージ別メイクの理解と習得				
授業回	学習内容				備 考
1.2	顔分析	顔分析、余白タイプ別メイク方法			
3.4		顔型のパターン、顔の縦・横のバランス、眉・目・唇のバランス、顔のタイプ			
5.6		子供顔、大人顔、男性的、女性的 ※ before・afterで写真を撮り、フェイスチャートにまとめる			
7	イメージ別 メイク	フレッシュ メイク	※イメージに合わせて マット、セミマ ット・ツヤ・グロッシ ーな肌づくり、リップ・ アイ・チークイメージ に合わせた色、形を 学ぶ		
8		キュートメイク			
9		クール メイク			
10		エレガント メイク			
11		イメージ別メイクトレーニング 40分 ※フレッシュ⇄クールなどベースはそのままメイクチェンジ なども実習			
12		イメージ別メイクトレーニング 40分 ※ キュート⇄エレガントなどベースはそのままメイクチェン ジなども実習			
13.14		《ユニオン認定試験》 シーン、テーマに沿ったメイク 4 0 分			
15		総復習			
到達目標	顔分析（スペースバランス）、キュート、フレッシュ、クール、エレガントのイメージ別メイクの理解と習得				
評価方法	各期実技試験及び授業内チェック、メイクシートにより評価する。なお、所定授業時間数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ユニオン公式テキスト、プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	安東		
科目名	美容実習（メイクセラピー）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	36
教育目標・ ねらい	化粧心理学・メイクセラピー的心理学・カウンセリング概論を理解する。 相手のオーダーに沿ったメイクを施すことができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	メイクセラピー検定とは？受験の心得、注意点 カウンセリング概論① 【到達目標】メイクセラピーの手法を理解する				
2	印象分析（パーツバランス） 【到達目標】人の印象の違いを心理学に基づき理解する				
3	色彩とメイク 【到達目標】色彩がメイクや印象に与える効果を理解する				
4	メイク実習①（求心・遠心） 【到達目標】元の顔立ちから印象を変えるメイクができるようになる				
5	化粧心理学 【到達目標】化粧と心理学の繋がりを理解する				
6	メイク実習②（知的） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
7	メイクセラピー的心理学 【到達目標】メイクセラピーに関連する心理学を理解する				
8	メイク実習③（穏やか） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
9	印象分析（コミュニケーション） 【到達目標】コミュニケーションに関連した心理学を理解する				
10	メイク実習④（元気） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
11	メイク実習⑤（華やか） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
12	カウンセリング概論② 【到達目標】カウンセリングの流れや注意すべきことが理解できる				
13	メイク実習⑥（復習） 【到達目標】オーダーに伴ったメイクができるようになる				
14	論述問題対策① 【到達目標】論述問題の記述方法が理解できる				

授業回	学習内容	備 考
15	筆記及び実技試験の総復習 【到達目標】 合格レベルに達する知識と技術を身に着ける	
16	筆記及び実技試験の総復習 【到達目標】 合格レベルに達する知識と技術を身に着ける	
17	メイクセラピー検定2級 筆記	
18	メイクセラピー検定2級 実技	
到達目標	心理学に基づいたメイク手法を理解し、それを表現するメイク技術を身につける。 心理療法に関する基礎的な知識を理解し、接客に活かすことができる。	
評価方法	検定の過去問題を使用し、実技（メイク・マナー）および筆記（論述問題）が2級合格基準に達しているかを評価する。	
テキスト	メイクセラピー検定2級テキスト	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は10年以上の美容部員の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容実習(セット試験課題)	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	80
教育目標・ ねらい	ヘアセットを学びながら、ヘアメイクアップアーティストに必要な心構えや技術修得を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	ウィッグ配布、道具の並べ方、頭部・道具の名称 ウェット、7スライス、コーミング 【到達目標】 道具のおき方、頭部の名称、道具の名称、使用目的を理解する コームの 持ち方、コームの回転、ウェットの仕方、スライスの取り方、コーミングの 仕方が理解できる				
2	カールアイロン ホットカーラー 【到達目標】 ・カールアイロンを使用し、フォワード・リバースカールが出来るようになる ・オンベース、オフベースを理解しホットカーラーを巻けるようになる				
3	ピンニング 黒ゴム 【到達目標】 ・ピンの使用目的、使用方法を理解し、ピンニング出来るようになる ・黒ゴムの使用目的、使用方法を理解する				
4	一束 すき毛 【到達目標】 ・黒ゴムを使用し毛束を1つに束ねることが出来るようになる ・すき毛の使用目的、使用方法を理解する				
6	すき毛一束 ボトムのデザイン 【到達目標】 ・すき毛を使用し一束を作れるようになる ・色々な方法でボトムをデザインすることが出来る				
7	逆毛 前髪 【到達目標】 ・逆毛の目的を理解し、逆毛を立てられるようになる ・下ろし流し立ち上げの前髪をつくれるようになる				
8	試験課題 【到達目標】 試験課題を理解する				
16～20	試験課題 仕込み 【到達目標】 ・試験課題を理解する フロント、サイド、トップの理解を深める ・仕込みの方法を学習し、試験課題の理解を深める				
21～26	試験課題 【到達目標】 ・試験課題を理解を深める すき毛の形と大きさを理解する ・審査ポイントを理解し、課題の理解を深める				

授業回	学習内容	備 考
27～30	試験課題 【到達目標】 ・各パーツの作り方を復習し、課題の理解を深める ・各パーツ(フロント、サイド、トップ)の作り方を復習し、試験課題の理解を深める	
31～33	試験課題 【到達目標】 ・試験課題を30分で作れるようになる ・セットの基本技術(ブラシワーク、ピニング、黒ゴム)を習得し、面構成のスタイルを作成することが出来るようになる	
34～35	試験課題 【到達目標】 試験課題を理解する	
36～37	試験課題 【到達目標】 試験課題を30分で作れるようになる	
38～40	実技試験 【到達目標】 セットの基本技術(ブラシワーク、ピニング、黒ゴム)を修得し、面構成スタイルを作成することが出来るようになる	
到達目標	セットの基本技術(ブラシワーク、ピニング、黒ゴム)を習得し、面構成スタイルを作成することが出来るようになる	
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない	
テキスト	配布資料	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容実習(デザインヘア)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20
教育目標・ ねらい	ヘアセットにおけるポイントごとの技術力を高め、セットスタイルにおける総合力を高め 現場での即戦力化を目指す。				
授業回	学習内容			備 考	
1～2	カール 【到達目標】 フォワードカール、リバースカールなど色々なカールを作れる ようになる				
3	ストレートアイロン 【到達目標】 ストレートアイロンの正しい使い方を理解して、ストレートヘア とウェーブヘアを作ることが出来るようになる				
4～5	ブロー 【到達目標】 デンマンブラシとロールブラシを使用し、ウィッグをブローする ことが出来るようになる				
6	編む 【到達目標】 三つ編み、編み込みが出来るようになる				
7	ハーフアップ 【到達目標】 アイロンワークの復習をしながらハーフアップの作品を作成する ことができる				
8	編み込み 【到達目標】 アイロンワークの復習をしながら編み込み作品を作成すること ができる				
9	お団子スタイル 【到達目標】 アイロンワークの復習をしながらお団子スタイルを作成すること が出来る				
10	ヘアアレンジ 【到達目標】 ホットカーラーを復習し、アレンジ作品を作成することができ る				
到達目標	ヘアメイク現場に必要なセット技術を身に付け、卒業後即戦力として活躍できるようにな る				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生は受 験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	美容実習(セット相モデル実習)	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	ウィッグではなく人に技術を施すことで、憧れだった職業を現実的に体感し接客や技術力向上を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	カウンセリング：カウンセリングシートをもとに要望を把握し、要望に応じたテクニックを学ぶ 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術を知識として理解して説明ができる				
2～4	相モデル実習 【到達目標】お客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術、それにこたえられる技術提供を実践を通して提供する事が出来る				
5～6	相モデル実習・仕上がりチェック 【到達目標】実技チェックを行いお客様の要望を引き出し方と要望に応えるヘアセット技術、それにこたえられる技術提供を実践を通して提供する事が出来ることを確認する				
到達目標	モデルの要望を引き出し、カウンセリングシートにまとめ、対象者に応えられる技術提供ができる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業指数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（ネイル３級）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	32
教育目標・ ねらい	ネイルケア・ネイルアートに関する基礎的な技術及び知識を習得することができる				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ 道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定３級試験概要説明 ・ ファイリングカットスタイル/ファイリング 【到達目標】ネイル道具のセッティングができるようになり、ネイル技能検定３級試験の内容を理解する ファイリングカットスタイルの種類と定義を理解し、「ラウンド」の定義を説明・実践することができるようになる				
2	・ 爪の構造と働き 【到達目標】爪の各部名称を理解し、施術をする際にどの部分が説明することができる				
3	・ ネイルケア、ニッパー 【到達目標】プッシャーをプッシュバック・プッシュアップ、ニッパーハンドリングができるようになる				
4	・ カラーリング/ネイルアート 【到達目標】赤ポリッシュをムラなくきれいに塗ることができるようになる。花のアートの描く手順を理解し、水分量を調節しながら花のアートを描くことができるようになる。				
5	・ 3級内容流れの確認 【到達目標】ネイル技能検定３級受験と同じスケジュールで技術工程を覚える				
6	・ タイムトライアル 【到達目標】ネイル技能検定３級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことができる				
7	・ タイムトライアル、苦手練習 【到達目標】ネイル技能検定３級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことが出来、合格レベルの仕上がりが作れるようになる				
8	・ ネイル実技試験(3級) 【到達目標】３級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができる				
到達目標	ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術及び知識を習得することができる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)等で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック テキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	境		
科目名	美容実習（ネイル３級）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	24
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ 道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定 3 級試験概要説明 ・ ファイリングカットスタイル/ファイリング 【到達目標】 ネイル道具のセッティングができるようになり、ネイル技能検定 3 級試験の内容を理解する ファイリングカットスタイルの種類と定義を理解し、「ラウンド」の定義を説 明・実践することができるようになる				
2	・ ネイルケア、ニッパー 【到達目標】 プッシャーをプッシュバック・プッシュアップ、ニッパーハンド リングができるようになる				
3	・ カラーリング/ネイルアート 【到達目標】 赤ポリッシュをムラなくきれいに塗ることができるようにな る。花のアートの描く手順を理解し、水分量を調節しながら花のアートを描 くことができるようになる。				
4	・ 3級内容流れの確認 【到達目標】 ネイル技能検定 3 級受験と同じスケジュールで技術工程を覚え る				
5	・ タイムトライアル 【到達目標】 ネイル技能検定 3 級受験と同じスケジュールで技術工程を行う ことが出来る				
6	・ タイムトライアル、苦手練習 【到達目標】 ネイル技能検定 3 級受験と同じスケジュールで技術工程を行う ことが出来、合格レベルの仕上がりが作れるようになる				
7	・ ネイル実技試験(3級) 【到達目標】 3 級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができてい る				
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる 赤ポリッシュを美しく塗ること、花のネイルアートを描くことができるようになる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)等で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生 は受験することができない。				
テキスト	JNAテクニカルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイ リスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト 養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（ネイル2級）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	36
教育目標・ ねらい	サロンワークで通用するネイルケア・リペア・チップ&ラップ、ネイルアートに関する技術及び知識を習得することができる				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ 道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定 2 級試験概要説明 ・ リペア&イクステンションの用具・用材と使用目的 【到達目標】ネイル道具のセッティングができるようになり、ネイル技能検定 2 級試験の内容を理解するリペア&イクステンションの用具・用材と使用目的を理解し、正しく安全に使用することができる				
2	・ ネイルケア 【到達目標】ラウンドの仕上がり、クリーンナップの仕上がりなどサロンワークで通用するネイルケアに仕上げることができる。				
3	・ カラーリング/ネイルアート 【到達目標】指定カラーをムラなくきれいに塗ることができるようになる。ネイルアートは、テーマに相応しいデザインを筆のみで描き精密に描くことができる。				
4	・ イクステンション（チップ&ラップ） 【到達目標】イクステンション（チップ&ラップ）の手順を理解し、モデルの爪に合わせたネイルチップ・ラップ素材の選び、装着をすることができる				
5	・ 前半課題（ネイルケア）のチェック 【到達目標】2 級合格レベルのネイルケアに仕上げることができる				
6	・ 2 級内容流れの確認 【到達目標】ネイル技能検定 2 級受験と同じスケジュールで技術工程を覚える				
7	・ タイムトライアル 【到達目標】ネイル技能検定 2 級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことができる				
8	・ タイムトライアル、苦手練習 【到達目標】ネイル技能検定 2 級受験と同じスケジュールで技術工程を行うことができる、合格レベルの仕上がりが作れるようになる				
9	・ ネイル実技試験(2 級) 【到達目標】2 級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができる				
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる。指定ポリッシュを美しく塗ること、指定のネイルアートを描くこと、チップ&ラップがができるようになる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)等で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	JNAテクニカルシステムベーシック テキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	境		
科目名	美容実習（ネイル２級）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	24
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことが出来る				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ 道具のセッティング、使用方法/ネイル技能検定２級試験概要説明 ・ ２級レベルケア・カラーリング 【到達目標】ネイル技能検定２級試験の内容を理解する ２級レベルの技術を習得する				
2	・ チップ＆ラップ説明、練習 【到達目標】２級必須項目のチップ＆ラップを理解し習得する				
3	・ ２級流れ確認 【到達目標】ネイル技能検定２級受験と同じスケジュールの技術工程を覚える				
4	・ ２級内容タイムトライアル 【到達目標】ネイル技能検定２級受験と同じスケジュールで技術工程を行い 時間内に仕上げる				
5	・ ２級内容タイムトライアル 【到達目標】ネイル技能検定２級受験と同じスケジュールで技術工程を行い 時間内に仕上げる				
6	・ タイムトライアル、苦手練習 【到達目標】ネイル技能検定２級受験と同じスケジュールで技術工程を行う ことが出来、合格レベルの仕上がりが作れるようになる				
7	・ ネイル実技試験（２級） 【到達目標】２級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができている				
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる 指定カラーをきれいに塗布、チップ＆ラップができるようになる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)等で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生 は受験することができない。				
テキスト	JNAテクニカルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイ リスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト 養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（ネイル中級）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	18
教育目標・ ねらい	ジェルネイルを施術するため必要な基礎的知識と技術の習得				
授業回	学習内容			備 考	
1	ジェル検定初級試験課題について 【達成目標】課題内容を知り、使用する道具の名称、用途を理解する。				
2	ネイルケアについて 【達成目標】手指消毒、ファイリング、キューティククリーンまで仕上げる ことができる。				
3	ポリッシュカラーリングについて 【達成目標】ベースコート、カラーポリッシュ（2度塗り）、トップコート まで仕上げるができる。				
4	ジェルカラーリングについて 【達成目標】サンディング、ベースジェル、カラージェル（2度塗り）、 トップジェルまで仕上げるができる。				
5	ジェルアートについて 【達成目標】ジェルカラーリングの赤色に映えるジェルアート（ピーコッ ク）を施すことができる。				
6	実技試験 第2 課題について 【達成目標】60分以内にポリッシュカラーリング、ジェルカラーリング、 ジェルアートを仕上げるができる。				
到達目標	60分以内にポリッシュカラーリング、ジェルカラーリング、ジェルアートを仕上げるこ とができる。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)等で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生 は受験することができない。				
テキスト	JNAジェルネイルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	境		
科目名	美容実習（ネイル初級）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	18
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことができる				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ 道具のセッティング、使用方法/初級工程確認 【到達目標】 ネイル道具のセッティングができるようになり、ジェル ネイルの特性を理解する				
2	・ 赤ポリッシュと赤ジェル塗布練習 【到達目標】 ジェルネイルの特性を理解し、ジェル検定初級の技術を 習得する				
3	・ ピーコックアート 【到達目標】 ジェルネイルの特性を理解し、ジェル検定初級の技術を 習得する				
4	・ 初級流れ確認 【到達目標】 ジェルネイル技能検定初級と同じスケジュールの技術工 程を覚える				
5	・ ネイル実技試験(初級) 【到達目標】 初級内容を理解し正しい手順、技法で施術することがで きている				
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる ネイルケア、ジェルネイルの特性を理解し施術ができるようになる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)等で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生 は受験することができない。				
テキスト	JNAジェルネイルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイ リスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト 養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（ネイル中級）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	4
教育目標・ ねらい	ジェル検定中級試験課題を理解し、試験で使用する道具を消毒及び衛生的に配置することが出来る				
授業回	学習内容			備 考	
1	ジェル検定中級試験課題について 【達成目標】課題内容を知り、使用する道具の名称、用途を理解する。				
2	ジェル検定中級試験課題について 【達成目標】使用する器具・用具類の消毒方法を理解し、消毒することができる。衛生的に配置することができる。				
到達目標	消毒することの意味や使用する消毒剤の種類等正しい知識を習得することができる。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)等で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	JNAジェルネイルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティーアーティスト科	担当教員	境		
科目名	美容実習（ネイル中級）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	ネイルの基礎知識・基礎技術を習得し、 安全且つ衛生面に配慮し技術工程を行うことができる				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ジェルスカルプチュア説明、練習 【到達目標】ジェルネイルの特性を理解し、長さ出しができるようになる				
2	・タイムトライアル 【到達目標】正しく道具を使用し、仕上げまで時間内に終わらせることができるようになる				
3	・タイムトライアル、苦手練習 【到達目標】正しく道具を使用し、仕上げまで時間内に終わらせることができるようになる				
4	・ネイル実技試験(中級) 【到達目標】ジェルネイル技能検定中級内容を理解し正しい手順、技法で施術することができる				
到達目標	正しく、安全にネイル道具を使用することができるようになる JNAジェルネイル検定中級合格レベルの技術を習得しサロンワークで活かせるようになる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)等で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	JNAジェルネイルテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員はネイルサロン経営者として、また日本ネイリスト協会本部認定講師としての経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	唐沢		
科目名	美容実習（着付け）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	12
教育目標・ ねらい	浴衣の補正、自装、他装の着付けができるようになる				
授業回	学習内容			備 考	
1	浴衣の着付けについて 【到達目標】 道具の名称、浴衣のたたみ方、補正の仕方を理解する				
2	浴衣の着方（自装） 【到達目標】 タオルで補正し、浴衣を着ることができる 文庫結びができるようになる				
3	浴衣の着付け（他装） 【到達目標】 タオルで補正し、浴衣を着付け、文庫結びをすることが できる				
到達目標	浴衣の補正、自分で着ることができる、他人に着付けることができる				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験 することができない				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	渡辺・唐沢		
科目名	美容実習（着付け）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	32
教育目標・ ねらい	浴衣の補正、自装、他装の着付けができるようになる				
授業回	学習内容			備 考	
1	浴衣の着付けについて 【到達目標】 道具の名称、浴衣のたたみ方、補正の仕方を理解する				
2	浴衣の着方（自装） 【到達目標】 タオルで補正し、浴衣を着ることができる 文庫結びができるようになる				
3	浴衣の着付け（他装） 【到達目標】 タオルで補正し、浴衣を着付け、文庫結びをすることができる				
到達目標	浴衣の補正、自分で着ることができる、他人に着付けることができる				
評価方法	実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験 することができない				
テキスト	日本髪・着付け理論プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	原田		
科目名	国家試験必須科目（関係法規・制度）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	(1) 美容師に必要な法を理解し、具体的な法の執行作用(行政処分等)について理解する (2) 正しい法理解に基づく遵法意識を持つ				
授業回	学習内容			備 考	
1	法の形式と美容師法について 【到達目標】 (1) 社会生活における法の役割を理解している (2) 美容師法の目的と用語を理解・記憶している (3) 美容師の義務への理解を通し、衛生の重要性を理解している			小テスト5問 (1問1点) 国家試験過去問題 より出題	
2	1. 前回の振り返り、2. 美容師免許制度と衛生行政について 【到達目標】 (1) 美容師免許制度の概要を知り、3年後の国家試験の流れを理解する (2) 衛生行政の核となる保健所の美容業に対する関わりを学び、第4回授業の 基礎となる諸知識を理解し、記憶している			小テスト5問 (1問1点) 国家試験過去問題 より出題	
3	1. 前回の振り返り、2. 美容所の開設・運営について 【到達目標】 (1) 美容所の開設の具体的方法を知る (2)美容所開設者の衛生措置と美容師の義務を対比して理解・記憶している (3) 管理美容師について学び、理容・美容師試験研修センターの役割について の理解を深める (4) 美容所以外での業務について知る			小テスト5問 (1問1点) 国家試験過去問題 より出題	
4	1. 前回の振り返り、2. 美容師・美容所に対する行政処分 【到達目標】 (1) 美容所への立ち入り検査の概要と、その違反者に対する行政処分の種類を 理解・記憶している (2) 保健所の行政処分に対する異議申し立ての過程を理解している			小テスト5問 (1問1点) 国家試験過去問題 より出題	
5	今まで学んだことのまとめ				
到達目標	美容業に携わる人・施設がすべからく衛生に配慮すべきことが美容師法を貫く根本的概念であることを 理解できている。 このことにより、個々の法令を丸暗記せずともの確な考察ができ、それに基づく適切な行動がとれる ようになっている。				
評価方法	定期試験結果80%、小テスト結果合計20%の割合で評価する。 なお、所定時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	関係法規・制度(日本理容美容教育センター) 美容師法関係法令集				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	木村		
科目名	国家試験必須科目（保健）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	人体の構造及び機能の基礎知識を学び美容の実践に活かせるようにする				
授業回	学習内容			備 考	
1	頭・顔・頸部の体表解剖学、骨格系について学ぶ 【到達目標】広範な基礎知識を学ぶ			第一編 第一・二章	
2	筋系、神経系について学ぶ 【到達目標】筋系、神経系について学ぶ			第三・四章	
3	感覚器系、血液と免疫系、循環器系について学ぶ 【到達目標】感覚器系、血液と免疫系、循環器系について学ぶ			第五・六・七章	
4	呼吸器系、消化器系について学ぶ 【到達目標】呼吸器系、消化器系について学ぶ			第八・九章	
到達目標	美容師にとって人体に関する最低限の知識を身に付ける				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	保健(日本理容美容教育センター指定教科書)、配布プリント				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	村田		
科目名	国家試験必須科目（香粧品化学）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必須	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	美容部員として必要な香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことで企業人としての 見識や教養を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	導入、香粧品の定義：香粧品を取り扱うことにあたって必要な法律や 注意点を学ぶ。 【基礎化学】物質の構成				
2	香粧品の取り扱い：保存や用法、適正な使用方法を学ぶ。 【基礎化学】物質の量、溶解、コロイド				
3	水性原料、油性原料：香粧品の主原料となる成分の種類や特徴を学 ぶ。				
4	界面活性剤：4 種類の界面活性剤の特徴、使用用途を学ぶ。				
5	色材・香料：香粧品のアクセントとなる香料の原材料、色材の特徴や 長所と短所を学ぶ。				
到達目標	美容部員としての通常業務における使用薬剤・効能などの知識の獲得				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考 慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することがで きない。				
テキスト	香粧品化学（日本理容美容教育センター刊）				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	今野		
科目名	国家試験必須科目（文化論）	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	8
教育目標・ ねらい	文化論には幅広いお客様との相互理解を得るためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在していることから、基本を知り、経験の中で理解を含めさせれるようにしていく。				
授業回	学習内容			備 考	
1	教科書オリエンテーション、文化論で何を学ぶか 理容業・美容業の発生、ファッション文化史日本編				
2	中世の時代から江戸時代までの髪型と服装、 明治・大正・昭和前期までの髪型と服装について				
3	1945年から1950年代のファッション文化について1960年代以降の ファッション文化について				
4	礼装の種類/和装の礼装・洋装の礼装について				
5	ファッション文化史西洋編/古代エジプト～16世紀まで 17世紀～19世紀までのファッション文化について				
6	1910年代以降のファッション文化について				
7	授業資料と国家試験果子問題集をもとに試験対策授業				
8	学科試験				
到達目標	美容業界にて必要とされる歴史の基本知識を身につけるとともに国家試験への理解を深める				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	理容文化論（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	国家試験必須科目（運営管理）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	経営者が果たす役割や人を雇うことの責任を知り、社会人として求められることを学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	理美容業の経営環境 少子高齢化と理美容業 ・ 総人口の推移 ・ 若年・生産・老年3区分による将来人口推計 ・ 人口の減少と構造変化が理美容業に及ぼす影響と対応策 理美容業の動向 理美容業の動向 ・ 理美容所及び従業者の動向と課題			小テスト5問 (1問1点) 日本理容美容教育セ ンター指定教科書よ り出題	
2	資金管理 経理 収支と損益 ・ 貸借対照表とその意義 ・ 損益計算書とその意義 税金 ・ 個人経営・法人経営別税金の種類と納付時期 ・ 税に関する罰則 ・ 青色申告制度			小テスト5問 (1問1点) 日本理容美容教育セ ンター指定教科書よ り出題	
3	年金保険 / 公的年金 ・ 国民年金 ・ 厚生年金保険 医療・介護保険 医療保険 ・ 国民皆保険制度 ・ 制度別保険者と被保険者・ 医療費一部負担金 の割合 介護保険 ・ 介護保険法の目的 ・ 被保険者と財源負担 ・ 給付制度の概要			小テスト5問 (1問1点) 日本理容美容教育セ ンター指定教科書よ り出題	
4	労働関係法規 労働基準法 ・ 労働条件の原則 ・ 労働時間、休憩、休日、年次有給休暇 等 労働安全衛生法 ・ 労働安全衛生法の目的 ・ 健康診断 雇用保険法 ・ 雇用保険法の目的 ・ 給付制度の概要 労働者災害補償保険法 ・ 労働者災害補償保険法の目的 ・ 給付制度の概要			グループワーク 理解度チェック	
到達目標	経営とは何を目的に、どのようなことを行っていくか経営の基礎を理解させる。				
評価方法	学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	「運営管理」（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野		
科目名	国家試験必須科目（美容技術理論）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	3
教育目標・ね らい	基礎となる理論を学び、理論に基づいた正確な技術の習得を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	美容技術理論を学ぶにたって 1 美容理論と美容技術 2 美容技術における作業姿勢 3 美容技術に必要な人体各部の名称				
2	美容用具 1 美容技術における用具 2 コーム 3 ブラシ シザーズ 5 レザー 6 ピン類、ヘアクリップ			4	
3	美容用具 7 ロット 8 ローラー 9 ヘアアイロン 10ヘアドライヤー 11 ヘアスチーマー 12 遠赤外線機 美容用具について試験				
到達目標	美容技術について基礎知識が理解できている				
評価方法	期末実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野、唐沢		
科目名	国家試験課題実習(ワインド)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	40
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第二課題ワインディングを合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1	ワインディング理論、ウィッグ・コーム等を使用しながら確認 【到達目標】 基礎となる理論を理解し、作業の想像ができる。				
2	コームワーク、ブロッキング 【到達目標】 コームを用いて任意に毛髪の分けとりができる。				
3～5	ブロッキングタイム入れ、上巻き、下巻き展示、練習 【到達目標】 基礎となる上・下巻きを適切に行うことができる。				
5～6	国家試験課題ワインディング理論と構成の確認 10ブロッキング、第2ブロック展示・練習 【到達目標】 ・国家試験課題ワインディング技術を理論的に説明できる。 ・左右対称にロッド幅でブロッキングがとれる、スライスを平行にとり第2ブロックを巻き収められる				
7～9	第3、4ブロック展示練習 センター(第2～4ブロック)練習、タイム入れ 【到達目標】 ・オフベースに巻き収める際の留意点理解し、巻き収めることができる。 ・オンベースとオフベースを適切に巻き分けることができる。				
10～12	フロント(第1ブロック)展示・練習 右バックサイド、ネープ、サイド展示・練習 【到達目標】 ・フェイスラインに対してラウンドして巻き収めることができる。・任意のスライスに対して直角に巻き収めることができる。				
13～15	左バックサイド、ネープ、サイド展示・練習 全頭巻き練習、タイム入れ(35分) 【到達目標】 ・左右のシンメトリーを意識して巻き収めることができる。 ・センターを平行かつ左右対称に巻き収めることができる。				

授業回	学習内容	備 考
16～19	全頭タイム入れ(35～25分) 【到達目標】定められた時間内に留意点すべてを押さえて巻き収めることができる。	
20	国家試験第二課題ワインディング 全頭タイム入れ(25分) 【到達目標】試験時間内に留意点すべてを押さえて巻き収めることができる。	
到達目標	ワインディングの理論と共に基礎技術を身に付け、資格試験課題第二課題の構成を理解し形状を作ることができる	
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	「美容技術理論１・２」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野、唐沢		
科目名	国家試験課題実習（カット）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	20
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第一課題を合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1～3	カット技法、シザーズの構造、使用後の手入れを説明、開閉練習 国家試験課題カッティングの説明 ブロッキング、インサイドカット、手入れ方法の説明 【到達目標】 技法毎の特徴を理解する。シザーズカットの仕組みが説明できる。 シザーズの持ち方と開閉を習得し、毛髪を適切に扱うことができる。 国家試験課題カッティングの構成、技法を説明出来る				
3	開閉テスト、ブロッキングテスト、国家試験課題カッティングの切り方(ヘムライン)パネルの角度とシルエットの説明 【到達目標】 習得した技術を使用して実際に毛髪をカットすることができる。 ステムとスタイルの関係を説明できる。 国家試験課題カッティングのヘムラインをカットすることができる				
4	アウトサイドカットの練習・オンベース引き出し練習、国家試験課題カッティングの切り方(アンダーセクション、ミドルセクション、オーバーセクション)パネルの角度とシルエットの説明 【到達目標】 頭皮に対して直角に毛髪を引き出すことができる。オーバーセクションをカットすることができる				
5	アウトサイドカットの練習・オンベース引き出し練習、国家試験課題カッティングの切り方(フロント、サイド)パネルの角度とシルエットの説明 【到達目標】 頭皮に対して直角に毛髪を引き出すことができる。 国家試験課題カッティングの全体の引き出し方を説明できる国家試験課題カッティングでフロント、サイドをカットすることができる				
6～9	国家試験課題カッティングを(50分)で練習をする 【到達目標】 理論と技術行程を理解して、規定に則った作品を30分で作ることができる				
10	国家試験課題カッティング 技術時間50分 実技チェック 【到達目標】 理論と技術行程を理解して、50分で国家試験合格レベルで作ることができる				
到達目標	カット理論の基礎と国家試験第一課題・カッティング試験の基礎的技術を理解し、作業時間50分で合格レベルまでの技術を修得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野・唐沢		
科目名	ビジネスマインド	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45
教育目標・ ねらい	社会的コミュニケーションの基礎となる目配り・気配り・心配りの意義を深く理解する。 また相手の立場に立って行動出来るよう自己理解を深める。各種技法の意味を理解し自己改善を図る ことで主体的に実践出来るようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	LESSON1 ビジネスパーソンとは 「1-1学生と社会人との違い」 【到達目標】職業人としての自覚を芽生えさせる。			ビジネスマナー テキスト p1～2	
2	自己分析 【到達目標】自分の強みや特徴を把握し、自分を客観的に見ることができる			ワークシート	
3	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】良質な人間関係を築くために基本マナーを知る。			ビジネスマナー テキスト p 4.7～8	
4	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】良質な人間関係を築くための基本マナーを知る。 加えて、「話し手」と「聞き手」のマナーを知る。			ビジネスマナー テキスト p 4.7～8	
5	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】『品性』のある身のこなしを学び、実践する。			ビジネスマナー テキスト p 9～13	
6	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上手のコミュニケーション、6-3 PDCA」 【到達目標】職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。			ビジネスマナー テキスト p 51～54	
7	宿泊オリエンテーション 【到達目標】コミュニケーション能力を習得し、円滑に対人関係を結ぶ				
8	宿泊オリエンテーション 【到達目標】人から信頼される為に、主体的に物事を考え行動に移す				
9	オリエンテーション振り返り			ワークシート グループワーク	
10	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人として言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネスマナー テキスト p 3.p17～24	
11	LESSON3 言葉遣い② 「1-2 OK行動、3-1 敬語、-2 敬語のテクニック、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネスマナー テキスト p 3.p17～24	
12	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」 【到達目標】『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネスマナー テキスト p 5～6	
13	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」 【到達目標】『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネスマナー テキスト p 5～6	

授業回	学習内容	備 考
14	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」 【到達目標】『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。	ビジネスマナー テキスト p5～6
15	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 「6-4 コンプライアンスとは、6-5 公私の区別、6-10 SNSの使い方とマナー」 【到達目標】守るべき行動規範を理解し、社会の一員としてモラルを守って生活することができる。	ビジネスマナー テキスト p 55～56.68～69
16	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応① 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】接客マナーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネスマナー テキスト p 25～40
17	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応② 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】接客マナーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネスマナー テキスト p 25～40
18	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応①「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】接客マナーを習得し、就職後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p41～49.70～71
19	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応②「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】接客マナーを習得し、就職後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p41～49.70～71
20	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー① 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキスト p 56～67
21	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー② 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキスト p 56～67
22	実務実習の振り返り	ワークシート グループワーク
23	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー③ 「6-9 手紙の書き方」 【到達目標】ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、就職後に実践できるようにする。	ビジネスマナー テキスト p 64～67
到達目標	職業人を目指すうえで、学んだ知識・技術そして心構えを実践し、相手からの信頼を得られることが出来る。	
評価方法	実務実習・学外実習等における実習指導者の評価及び個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	ビジネスマナーテキスト	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	近田		
科目名	表現技術（展示授業）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	ビューティ業界で活躍をする方より実践的な技術や知識を学び、直接指導を受けることで今の業界の考え方や価値観を含めた流行を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1	業界人による今の業界の流れと必要な人材・キャリアプランの方法性について講義を行う 【到達目標】 業界人として今後活躍するうえで今後キャリアプランをより明確にする				
2・3	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる				
4・5	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる				
6・7	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる				
8・9	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる				
10・11	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる				
12・13	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる				
14・15	業界人より現在の流行スタイルと必要な技法・商材を使用したデモンストレーションと直接指導によるアイモデル実習 【到達目標】 流行のスタイルを学び実際の商材を使用して作り出せるようになる				

到達目標	業界の今の流れを理解し、流行のスタイルと商材について学び使用して作品を作ることが出来る
評価方法	各授業ごとでの仕上がり进行评估(4段階判定)で評価し、授業ごとの類計を総合評価とする
テキスト	配布資料
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は18年以上の化粧品会社専属メイクアップアーティストとしての経験を活かし、個性を引き立て、なりたいイメージに合わせたメイク提案と、施術者自身で再現できるメイクアップ方法についての授業を行う。

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	石川		
科目名	ファッション学(色彩学)	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	46
教育目標・ ねらい	AFT色彩検定3級及び2級の内容を通して、色彩に対する興味と理解を深め、 将来の職業に役に立つ色彩の知識とセンスを修得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	検定内容の説明・授業の進め方・目標設定 色彩心理テスト・カラートランプ作成 【到達目標】 ・ 検定の内容と授業の目的を理解し、目標を設定する。 ・ 色彩心理テストを通して色に興味を持ち楽しく学ぶためのカラートランプを作成する。				
2	色の分類と三属性・PCCS 【到達目標】 ・ 検定合格に必須となるPCCSの基本を理解する。				
3	色はなぜ見えるのか？ 【到達目標】 ・ 色が見えるメカニズムを理解し、色に対する興味を持つ。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	
4	眼の仕組み 照明と色の見え方 【到達目標】 ・ 眼の仕組みを理解する。 ・ 照明による色の見え方の違いを理解する。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	
5	三原色と混色、色の対比と同化 【到達目標】 ・ 三原色と二つの混色の違いを理解し、混色によって色を作り出せる知識を修得する。 ・ 色の対比と同化を理解する。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	
6	色相を手がかりにした配色 トーンを手がかりにした配色 【到達目標】 ・ 配色の基本的な考え方を理解する。 ・ 色相をもとにした配色とトーンをもとにした配色を理解する。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	
7	色相とトーンを手がかりにした配色 配色の基本的な技法・配色イメージ 【到達目標】 ・ 色相とトーンを組み合わせた配色を理解する。 ・ 配色技法を理解し、日常の中から見つけられるようにする。			授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施	

授業回	学習内容	備 考
8	3級テキスト範囲の小テスト 色彩心理テスト 【到達目標】 ・3級テキストの内容が理解できるかどうか確認する。 ・色彩心理テストを通し色がどのように心理に働くか理解する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
9	色のユニバーサルデザイン 光と色①(視細胞) 【到達目標】 ・日常にあるユニバーサルデザインについて色の活用方法を知る。 ・視細胞について理解する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
10	光と色②(照明) ビジュアルデザインの色彩・メディアデザインの色彩 【到達目標】 ・照明について理解する。 ・ビジュアルやメディアの仕事で活用されている色彩の知識を理解する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
11	マンセル表色系 【到達目標】 検定2級に必須となるマンセル表色系について理解するとともにPCCS表色系との違いについても整理する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
12	小テスト 色彩心理テスト 【到達目標】 ・ここまでの内容が理解できるかどうか確認する。 ・色彩心理テストを通し色がどのように心理に働くか理解する。	
13	色の視覚効果・色の心理効果 色彩調和・自然の秩序からの色彩調和 【到達目標】 色の視覚効果と心理効果について理解するとともに3級で学んだ内容との違いを整理する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
14	配色技法① 【到達目標】 2級に出題される配色技法を理解し、それをもとにPCCSカラーカードを使用して配色できるようになる。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
15	配色技法② 【到達目標】 2級に出題される配色技法を理解し、それをもとにPCCSカラーカードを使用して配色できるようになる。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施

授業回	学習内容	備 考
16	イメージ別配色法 【到達目標】 配色とイメージを結びつけ、イメージをもとにPCCSカラーカードで配色できるようになる。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
17	配色演習 【到達目標】 2級テキストの配色を演習を通して理解する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
18	ファッションの色彩と配色 【到達目標】 ファッションで活用されている色彩の知識を理解する。	
19	インテリア 景観色彩・色名 【到達目標】 インテリアや景観で活用されている色彩の知識を理解する。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
20	検定対策 【到達目標】 検定対策問題を通して、検定出題傾向に慣れるとともに身に付けた知識の確認をする。	授業の開始時に前回分の小テストとPCCSカラーカードトレーニング実施
21	検定対策 【到達目標】 検定対策問題を通して、検定出題傾向に慣れるとともに身に付けた知識の確認をする。	
22	検定対策 【到達目標】 検定対策問題を通して、検定出題傾向に慣れるとともに身に付けた知識の確認をする。	
23	検定振り返り・答え合わせ・解説 【到達目標】 色彩検定の解答・解説を通して自身の可否を確認する。	
到達目標	・ファッション等における配色の基本を身につける。 ・色彩理論を理解し、他者に伝えることができるようになる。	
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。	
テキスト	AFT色彩検定3級及び2級公式テキスト AFTカラーカード	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は10年以上の美容サロン勤務及び4年以上のデザイン事務所勤務の経験を踏まえ、ビューティアーティストとして身につけるべき色彩構成と、それに基づく具体的提案ができるようにする	

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	近田		
科目名	ファッション学（ブランド授業）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	10
教育目標・ ねらい	化粧品業界で活躍されているゲスト講師を招いて、企業説明からデモンストレーションを行い、化粧品に触れ、ブランドコンセプトと化粧品知識、メイク技法を習得してメイクアップの視野を広げる				
授業回	学習内容				備 考
1	❑ブランド授業 化粧品ブランド企業説明を行い、ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランドならではの知識やメイクアップ技法を習得する。				
2	❑ブランド授業 化粧品ブランド企業説明を行い、ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランドならではの知識やメイクアップ技法を習得する。				
3	❑ブランド授業 化粧品ブランド企業説明を行い、ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランドならではの知識やメイクアップ技法を習得する。				
4	❑ブランド授業 化粧品ブランド企業説明を行い、ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランドならではの知識やメイクアップ技法を習得する。				
5	❑ブランド授業 化粧品ブランド企業説明を行い、ブランドコンセプト、化粧品知識を学び、化粧品に触れ、ブランドならではの知識やメイクアップ技法を習得する。				
到達目標	化粧品業界、化粧品ブランドにより詳しくなることでブランドの特徴を知り、ブランドならではの知識やメイクアップ技法を習得し、メイク道具のセレクトやメイク技術の幅を広げる。				
評価方法	出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	ブランド資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は18年以上の化粧品会社専属メイクアップアーティストとしての経験を活かし、個性を引き立て、なりたいイメージに合わせたメイク提案と、施術者自身で再現できるメイクアップ方法についての授業を行う。				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	Reina		
科目名	ファッション学（特殊メイク）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	18
教育目標・ ねらい	フェイスペイント、ボディペイントの技法を習得する 神話ができた歴史背景や物語、キャラクターを理解し、表現することができる 神話がテーマのヘアメイクフォトコンテストへの入賞を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	神話とその歴史背景や物語について学ぶ ペインティングに使用する材料の使い方を知る デッサンシートの描き方を学ぶ			デモンストレーション グループ制作	
2	ヘアメイク実習 ヘアー、メイク、衣装、小物のバランスを学ぶ			グループ制作	
3	作品制作 作品の撮影を通し、ヘアメイクの感性を学ぶ			グループ制作	
到達目標	各グループごとにテーマに合った作品を作成し、フォトコンテストに提出する 全国規模で行われるフォトコンテストの入賞を目指す				
評価方法	フォトコンテスト課題提出の有無、デッサン画、ポートフォリオの提出 出欠席 撮影写真のクオリティ				
テキスト	プリント（神話について、デッサンシート）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は自ら主宰する美容サロンでの実績に加え、 各種メディアでのグラビア、化粧品会社の広告宣伝等におけるメイクアップの経験により 培った特殊メイク、ボディペイント等に関する高度な知識と技術を伝える				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	近田		
科目名	ファッション学（トレンドメイク）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	メンズメイク講義やメイク業界で活躍されているゲスト講師を招き、講義とデモンストレーションを行い、考え方から知識を学び、メイク技法を習得してメイクアップの視野を広げる				
授業回	学習内容			備 考	
1	■ メイクトレンド□ 春トレンドの傾向の理解とメイクで表現出来るようになる。				
2	■ メイクトレンド□ 夏トレンドの傾向の理解とメイクで表現出来るようになる。				
3	■ メイクトレンド□ 秋トレンドの傾向の理解とメイクで表現出来るようになる。				
4	■ メイクトレンド□ 冬トレンドの傾向の理解とメイクで表現出来るようになる。				
到達目標	トレンドの知識を理解して、メイクアップでトレンドを上手に取り入れ、表現出来るようになる。				
評価方法	出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	トレンド資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は18年以上の化粧品会社専属メイクアップアーティストとしての経験を活かし、個性を引き立て、なりたいイメージに合わせたメイク提案と、施術者自身で再現できるメイクアップ方法についての授業を行う。				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	星野(沙)		
科目名	ファッション学(パーソナルメイク)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	パーソナルカラーを使った実用メイクアップ				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	基本的パーソナルカラーの知識と基本メイクアップ技術			相モデル ドレープ	
3・4	ブライダルメイクで見るパーソナルカラー			相モデル ドレープ	
5・6	成人式メイクで見るパーソナルカラー			相モデル ドレープ	
到達目標	パーソナルカラーを見つけ、似合わせメイクをすることができる				
評価方法	課題作品より100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	配布資料、参考資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上に及ぶカナダ・アメリカの美容サロン勤務経験を活かし、国内でも各種媒体における多くのヘアメイク・メイクアップの実績を持つ。確かな知識と技術に基づく様々なメイクアップ方法についての授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野、古荘		
科目名	ファッション学（フォト）	学 年	1	実施時期	前期 後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間(単位)	4
教育目標・ ねらい	カメラの基礎的操作（絞り、シャッタースピード、ISO感度など）を理解し、適切に設定できる				
授業回	学習内容			備 考	
1	カメラの基礎の説明			プリント配布	
2	撮影			相モデル	
到達目標	カメラの基礎的操作ができ、フォトコンテストにおいて自身で撮影することができる				
評価方法	授業態度、出席状況、フォトコンテスト撮影および作品提出				
テキスト	プリント				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野、唐沢		
科目名	ファッション学(美翔祭)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	18
教育目標・ ねらい	実際にお客様を担当することで、憧れだった職業を現実的に体感し、接客や技術向上を目指す				
授業回	学習内容			備 考	
1	学園祭技術ブース内容決め 【到達目標】お客様の目線に立ち喜んでいただける技術内容を決定する				
2～9	技術接客練習 【到達目標】お客様の要望を引き出し、技術模擬店にて要望に応えられる技術や接客が提供出来るようになる				
到達目標	学園祭を通し、お客様に満足していただける技術や接客はどのようなものか考え、実際におもてなしすることが出来るようになる				
評価方法	課題作品により100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野、唐沢		
科目名	学外実習	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	① 業界理解を深める為、実際の現場で業務の流れを学ぶ ② 主体的に仕事に取り組む姿勢を学び、仕事の優先順位を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	【学外実習①】 1. 現場を知る 2. ここで得た知見を自分の将来像決定に活かす 1年次：7月 14時間 （1日7時間勤務） 実習先：美容サロン(ヘアメイク部門)・ネイルサロン・ブライダルサ ロン等				
2	【学外実習②】 1. 自分がしたい仕事の分野はどこかを決める 2. この実習を通して、具体的な就職分野を明確にする 1年次：11月 46時間 （1日8時間勤務） 実習先：美容サロン(ヘアメイク部門)・ネイルサロン・ブライダルサ ロン等				
到達目標	1. 現場体験を通してビューティ業界に携わる自己の職業観・職業意識を確立する 2. 学内で学んだ知識と技術を活かし、現場で「お客様」にはならず、どんな役割でもきち んとこなし、スタッフに愛され、重宝される存在として、存在価値を認めてもらえる人間 となる				
評価方法	実習先からの評価と本人評価をもとに担任面談を通して学外実習の最終評価を行う。なお 所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない				
テキスト	配布プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				

学科	ビューティアーティスト科	担当教員	藤野、唐沢		
科目名	学内コンテスト	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	学園祭・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争して一つの物事を成し遂げることで業界理解や社会性を養い、学生全体が今後の業界で活躍できる力を養う				
授業回	学習内容			備 考	
1～6	《学園祭》 技術模擬店を出展し、来校されたお客様に満足の頂ける接客・技術を提供する 【到達目標】 模擬店内容を話し合いにより確定し、お客様に満足してもらえる接客や技術を提供できる模擬店舗経営をする				
7・8	《匠すと》 校内コンテストで1年次の最終成果物を作成し、研鑽してきた技術を競う 【到達目標】 出場競技ごとにイメージした作品を作り上げ、成果物として提出・参加をする				
到達目標	学園祭・匠すと(校内コンテスト)をとおして協調性・協同・競争する姿勢の大切さを理解し、今後の業界で活躍できる力をつける				
評価方法	行事ごとでの成果物に対し評価を行う。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	参考資料・配布資料				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となるメイクアップアーティスト養成の観点から授業を行う				